第29回 山形市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和7年2月3日（月）午後2時00分～午後3時30分

場 所：山形市役所11階 大会議室

I 出席者

1 委員（15名）	大場琴美委員	大桃伸一委員	佐藤浩子委員	佐藤睦子委員
	本島優子委員	大沼美鈴委員	野口比呂美委員	海和伸吉委員
	原田久雄委員	佐藤一彦委員	深瀬豊子委員	高橋公夫委員
	今野厚志委員	宮舘照彦委員	山口範夫委員	
欠席（5名）	在原智委員	高橋あゆみ委員	前田浩一委員	山川美江子委員
	中井伸一委員			
2 事務局	庄子こども未来部長、長澤こども未来課長、菅江保育育成課長、丹野こども家庭支援課長、加藤母子保健課長、深瀬指導主事（学校教育課）、佐藤社会教育青少年課長、奥山保育計画推進総括主幹、稲澤保育指導総括主幹、那須計画整備係長、瀧川主幹、今野主査、安達主任			

II 傍聴者

1 一般傍聴者	0名
2 報道機関	0名

III 会 議

- 1 開 会
- 2 こども未来部長挨拶
- 3 協議

(1) 山形市こども計画の最終案について…【資料1】【資料2】

資料に基づき事務局より説明

(主な質疑等)

議長	今回の最終確認ということにもなるため、委員全員のご意見をお伺いしたい。
委員	一人の親として、自分が子育てに向き合う立場にも関わらず、行政の子育てサービスについて、いつも受け身の立場になりがちだった。PTAの活動などでも、先生、医者、行政に対して言いたいことは言うが、自分がどのように向き合っているか考えながら子育てしていきたいと感じた。
委員	前回計画の達成状況やアンケートなどをもとにして作られており、計画策定の過程がきめ細やかであると思う。計画にもあるとおり、不登校児童が増加していることに心を痛めている。90ページの成果指標に不登校児童の増加率を減らす目標が掲げられているが、実際はなかなか難しいと思う。行政の支援も欠かせない。99ページの「スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー事業」は、市内で実施されている学校はまだ少なく、それが何年も続いている。全ての学校で実施できるよう人的配置をぜひお願いしたい。

委員	<p>民生委員として活動しているが、コロナ禍により学校との意見交換がなくなり、今まで行ってきた赤ちゃん訪問もなくなり、家族の状況や心配ごとを把握できなくなった。こどもに関係する活動ができていないかといえばそうではないのが現状だ。幼稚園や保育園の情報を流してくれると状況が分かって良いと思った。</p>
委員	<p>様々な事業・取組があるが、施策の推進にあたっては、143ページの「部局横断的な取組」とあるように、部署ごとに分断するのではなく、有機的に連携・協働しながら進めていただきたい。</p>
委員	<p>同様の意見で、課をまたぐと分断されるところがまだまだあると感じている。5歳児健診や幼保小連携で、同じ市の中でも情報が伝わっていないことがある。一人のこどもが必要な支援にしっかりつながるようなシステムになるようお願いしたい。</p>
委員	<p>前回の指摘について対応いただいた。第二期計画で、新たに取組んだことは重層的支援体制の整備、こども家庭センターの設置であり、今回は、貧困や虐待がクローズアップされてきたと思う。本計画は内容が多岐にわたるが、各関係者がそれぞれの役割を踏まえ、連携・協働することが大事である。虐待の支援では、「川上・川下の支援」という言葉が使われている。川下でこどもが溺れ、大人が助けるが、川上にいる大人はなぜこどもが支援が必要な状況になっているのかわからない、という例えの意味である。母子保健や地域子育て支援で連携し、虐待の予防支援に取り組んでほしい。</p>
委員	<p>前回質問した86ページの「障がい児保育受入促進事業」で、補助対象が増えたことは大きい。87ページの「中2・はたらく体験推進事業」について、コロナ禍もあり職場体験がなくなっており、こどもが職業を意識する機会が少なくなっていると感じている。120ページの「グリーンキッズプロジェクト」について、山形グリーンキッズという団体もあるので、類似団体同士で展開できるなら協働したい。県のみどり自然課のアオモリトドマツ再生のプログラムなどでも連携していければ。婚活支援は県でも事業を行っているので、市と連携すれば重層的に推進できると思う。138ページのこども誰でも通園制度の量の見込みと提供量について、箇所数は入れないのか。あくまで、受け入れ枠の目標となる定員数のみである。</p>
事務局 委員	<p>箇所数も示すと具体的に参考になり良いのではないかと。また、99ページの幼保小連携について、幼稚園から要録の写しを各学校へ送付しているが、受領証が返ってくる学校は半分くらいしかない現状である。5歳児健診、就学時健診、小学校の健診の3回で、一人のこどもについてしっかり協働すべき。架け橋プログラムについて、幼児教育側からの願いは、支援の要するこどもだけでなく、全てのこどもについて考えることである。幼保小の交流にとどまらず、それぞれどう役割を持ち、どこをどう連携するのか、本計画策定後、そのあたりを踏み込んで検討してほしい。</p>
委員	<p>架け橋プログラムの策定にあたり、国からも指針が示されると思うが、地域に任せきりだとどううまくいかないため、市で方策を示した方が良い。14ペ</p>

	<p>ージの令和5年の合計特殊出生率は、国・県よりも下がり大分落ち込んだ。山形市が改善しない限り、県全体が改善しない。V字回復は望めないと思うがどのラインまで目指したいのか。また、中学生の働く職場体験が中止になったままであるが、若者がキャリアを考える機会になるので再開してほしい。発達の気になる子や支援が必要な子について、5歳児健診で早めに相談できるといいが、認めない保護者もいるので、そこを上手く導けるようにしたい。</p>
委員	<p>1月に私立保育園連絡協議会の会議をしたが、認定こども園に移行後、経営が改善したという声もあった一方、定員の減少や保育士確保の課題が深刻と実感した。こどもが少なく先生が多いと経営難、こどもが多く先生が少ないと入所できないという悪循環になる。89ページの婚活支援について、実際にどれだけの方が結婚して山形市でこどもが生まれたか、その事業の成果も知りたい。出会いがないなどで結婚しない人が増えているが、どの園も少子化を最も懸念している。</p>
委員	<p>保育ママをしているが、139ページにある教育・保育施設と地域型保育事業の連携を、本当にしっかりとお願いしたい。2・3歳児が同じ定員の施設には、小規模保育で預かっている0～2歳児が入所できない。行先がないということにならないよう、そのあたりを配慮いただきたい。また、緊急時の代替保育で、一時保育を断られたため、親が葬儀に出られない、ということもあった。</p>
委員	<p>86ページの「放課後児童クラブ医療的ケア児受入事業」について、「医療的ケア児受入に係る看護師職員人件費の一部を補助」とあるが、「市立保育所及び民間立保育所医療的ケア児受入事業」との違いは何なのか。幼保小連携について、放課後児童クラブは小学校からデータをいただけない状況が多いのでしっかり入れていただきたい。96ページの「保育士宿舍借り上げ支援事業」は、成果があったのか。また、86ページの「障がい児保育受入促進事業」は、放課後児童クラブも対象になるのか。計画の概要版に、「発達の気になるこどもが増加している」とあるが、それに対してどうするのかははっきり記載されていないと感じる。</p>
事務局	<p>放課後児童クラブ医療的ケア児受入事業については、修正し書きぶりを合わせる。</p>
委員	<p>医療的ケア児を受入るにあたって、補助額は妥当な額なのか。</p>
事務局	<p>国で示された基準額に沿っている。</p>
事務局	<p>発達の気になるこどもについては、追加で計画に記載すべきことはないか再考したい。</p>
事務局	<p>保育士宿舍借り上げ支援事業の成果については、令和5年度で20施設、57名の利用があり、成果はあったと考えている。</p>
委員	<p>社会福祉協議会でも、地域と関わりながら、今後も支援が必要な人に対して適切なサービスにつなげていきたい。県でも計画を策定しているようなので、今後も整合性を図りながら進めていってほしい。</p>
委員	<p>増加し続けるこどもの自殺・いじめ・不登校などの問題について、児童生</p>

委員

徒に関わる全ての大人の責務として、考えなければならない。結婚しない、できない人が増え、少子化が更に進行し、ヤングケアラー等の様々な課題も山積しているため、今後もしっかり行政の支援を検討してほしい。計画案の内容は良いので、このまま進めていただきたい。

議長

1年ほど前にある施設が、子育て制度の根幹に関わる事件を起こしたので、そのあたりに注意して進めていただきたい。

全員

委員より、貴重な意見をいただいた。修正すべきところは修正した上で、計画を策定する方向でよろしいか。

議長

承認する。
こどもまんなか実行計画では、こどもや若者・子育て当事者の意見を聴き、対話しながら進めていくことが示されている。計画策定後も、当事者の視点を尊重しながら実践していただきたい。

(2) 令和7年度 利用定員の変更について…【資料3】

資料に基づき事務局より説明

(主な質疑等) なし

4 その他

来年度の子ども・子育て会議については、令和7年10月6日(月)、令和8年2月16日(月)を予定している旨を事務局より説明。

5 閉会